

## 皇居散策懇親会『大嘗宮参観』報告

東京支部（堺精一支部長）では、本年度で5回目となる皇居散策懇親会を、『皇位継承に伴う一世に一度の重要な儀式「大嘗祭（だいじょうさい）」の舞台を見学』と銘打ち、大嘗宮一般公開中の令和元年12月7日土曜日、校友で宮内庁書陵部陵墓調査官(博士)の徳田誠志氏(昭和59年卒)によるご案内で開催しました。

あいにくの雨模様（横浜では初雪を観測）の天候にもかかわらず、10時30分東京駅丸の内中央口に参加者20名が集結し、徳田氏の事前レクチャーを受け散策がスタート。皇居前広場でいつもより厳しい手荷物、身体検査を受け（ペットボトルを持参された人は一口飲まされていました！）坂下門へ向います。



〈皇居前広場 手荷物検査に並ぶ〉



〈坂下門より入城〉

坂下門をくぐり、「秋季皇居乾通り一般参観」コースではなく、ダイレクトに大嘗宮を目指します。まず天守閣の代用にもなった富士見櫓を見上げつつ、見事に積み上げられた石垣を横目に百人番所を経て本丸へ向かいます。



〈富士見櫓〉



〈百人番所〉

昨年訪れたときの一面の芝生から一転し本丸の先に目的の大嘗宮が見えてきました。



〈大嘗宮〉

一般公開 18 日間で 78 万人が訪れ、坂下門から 110 分もかかった日もあったとの事だが、当日は雨のお陰でここまで並ぶことなく比較的スムーズにたどり着けました。

大嘗宮は、10 月 22 日の「即位礼正殿の儀」にて今上陛下が即位宣明され、11 月 14・15 日に行われた大嘗祭の中心的儀式「悠紀殿供饌の儀」「主基殿供饌の儀」から成り、天皇陛下がご即位の後、初めて新穀を皇祖・天神地祇に供えられ、自らもお召し上がりになり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穰を感謝され、ご祈念になる大嘗祭の中心的な儀式、「大嘗宮の儀」のために造営されたものです。皇居・東御苑の旧江戸城本丸跡に建てられた、大小 30 余りの建物からなり、一般公開後は解体されます。因みに大嘗宮の設営は清水建設が担当しました。

また、徳田氏は宮内庁職員として、大嘗祭の夜通し続く儀式で、大松を持たれて陛下をお迎えする大役を果たされたとの事です。



〈大嘗宮の裏側から記念撮影〉

大嘗宮の後、徳田氏が勤務する「宮内庁書陵部」を經由して、江戸城の裏門にあたる「平川門」にて、予定より早く 12 時に散策が終了となった。専門性を交えかつ分かり易い徳田氏の説明に全員が感謝しつつ、皇位継承の一世に一度の重要な儀式の舞台「大嘗宮」を参観でき、貴重な体験となりました。

懇親会は、平川門向いの赤阪飯店へと場所を移し、大先輩の菅井一夫氏(昭和 37 年工卒)の乾杯ご発声でスタート。今回は大阪から参加の校友や東京センターの山本さんにも参加いただき、中華料理に舌鼓を打ちながら、参加者の自己紹介と共に昭和 37 年卒から平成 5 年卒まで幅広い層の懇親が深められました。



〈乾杯 菅井大先輩〉



「令和元年 皇居散策懇親会」

令和から次の世代に向けて東京支部による「皇居散策懇親会」の永続的な開催を誓い、ご夫婦で参加いただいた島本順光氏(昭和 44 年工卒)の一本締めで閉会となりました。

関西大学校友会東京支部  
幹事: 堺 精一 (昭和 50 年工卒)  
中岡英之 (昭和 59 年商卒)